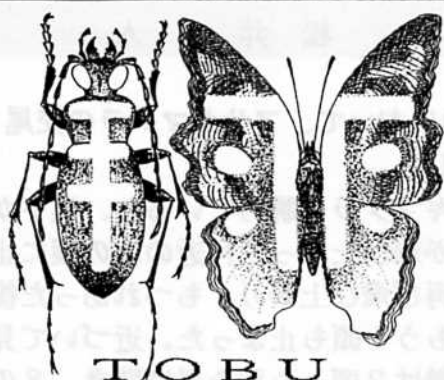




NO. 67

1987年 12月

百万石蝶談会

目 次

松井正人：アサギマダラの交尾行動を観察	 2
山本直樹：白山スーパー林道三方岩休憩所付近の蝶	 3
吉村久貴：富山県大多和峠におけるムモンアカシジミの採集記録	... 3
松井正人：宝達山のアサギマダラは移動個体群	 4
勝海雅夫：白山周辺のムモンアカシジミの発生について	 5
吉村久貴：富来町高爪山における採集記録	 6
田中秀夫：金沢市戸室地区でオオミスジ採幼	 7
松井正人：医王山のゴマシジミ	 7
野中 勝：「ロッキー I」	 8
編集部：会員の動き・しゃぼの動き	 11
編集部：例会の記録	 12

短 報 12

アサギマダラ(目撃)

1987年 7月28日	金沢市医王山	1 ex	澤田 博
1987年 8月 5日	金沢市医王山	2♂♂	澤田 博
1987年 8月27日	白峰村釈迦林道	多数	勝海雅夫
1987年 9月19日	津幡町三国山	1 ex	松井正人
1987年 9月27日	富来町荒屋	2♂♂	松井正人
1987年10月 4日	金沢市高尾	1 ex	澤田 博

アサギマダラの交尾行動を観察

松井 正 人

1987年9月6日押水町宝達山ピーク(630m)において、アサギマダラの交尾行動を目撃し、20時間後の交尾終了まで観察した。

薄暗い広葉喬木林内を飛翔する1頭のアサギマダラを眺めていると、真下からもう1頭飛び上がり、もつれあった後1頭が飛び上がった付近の木の葉に止まった。そこへもう1頭が止まろうとすると再び飛び上がり、もつれあった後1頭が同じ所に止まり(おそらく♀)、続いてもう1頭も止まった。近づいて見ると、既に交尾に入っていた(午後3時)。姿勢は2頭とも羽を半ば開き、♀の羽の内側に♂が入り、ちょうど♀の上に♂が乗っている感じだった。

1、2分後、飛び上がったところを捕獲したが、ネットの中でも交尾は続いていたため、交尾時間を知ろうと思い、交尾状態のまま持ち帰った。交尾は中々解けず、20時間後の翌日11時まで及んだ。この20時間の様子は、おおよそ次のとおりである。

3:00 交尾開始

3:02 捕 獲

3:05 車の座席に付ける。すぐに座席の下へ移動し、動かなくなる。(暗い所へ移動したのかも知れない)1exは足マットの捲れ上がった所に止まり、1exはやや反対向き(100度位)に水平にとまる。だいたい30分毎の覗いたが全く動いていない。



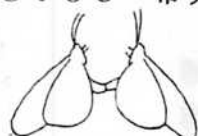
5:10 曲がりくねった舗装道路を走り、標高630mから0mまで車を動かすと、♀は動きだし、飛び上がったりするが、♂は動かず♀にまかせている。そのうち座席に止まり、♀も動かなくなる。



5:20 6:00まで平地を走りつづけるが、全く動かない。

6:00 翌朝8:00まで時々ライトを当てて覗いたが、全く動いていない。

8:00 布切に止まらせ、飼育ケースへ移す。ケースの網に止まらせると、♂、♀とも少し登り、2頭共上を向いたV字状になる。この状態で11:00まで全く動かない。



11:00 交尾が解ける。♀の腹部をつまむとしこりがある。(♀は、交尾すると腹部にしこりができるらしい¹⁾。)

末尾になりましたが、文献面で便宜をはかっていただいた、松枝 章、小幡英典の両氏にお礼申し上げます。

(1) 本藤 昇(1975) アサギマダラの飼育・展示, インセクタリウム 12(10)4-7

白山スーパー林道三方岩休憩所付近の蝶

山 本 直 樹

1987年8月2日より7日まで3回に渡り、白山三方岩周辺を探索し、岐阜県白川村にてアサマシジミ、石川県吉野谷村にてゴマシジミを目撃確認したので、若干の所見を述べる。

2日は石川のM氏、奈良のK氏と3名にて、三方岩周辺の白川村でゴマシジミを確認。野谷荘司までの稜線でゴマシジミを中心に探索する。5日、7日は単独で探索する。

この探索から、ゴマシジミの生態として、

1. カライトソウ及び、ギボウシsp.の実、茎、花に多く止まることがある。
2. 晴れ間の時、1の草原を良く飛んでいるのを見かける。
3. 晴れ間以外の時は、おおよそ1の状態にて静止している。
4. 私の歩いた範囲は、1、2、3のためか、カライトソウのあるギボウシを中心とした湿原には、必ずゴマシジミを目撃した。

1987年8月の目撃記録

ゴマシジミ	2、5、7日	岐阜県白川村三方岩～野谷荘司	各数頭
ゴマシジミ	5、7日	石川県吉野谷村三方岩	各数頭
アサマシジミ	7日	岐阜県白川村三方岩中腹	1♂
ミズイロオナガシジミ	2日	岐阜県白川村野谷荘司	1頭
キベリタテハ	2、5日	岐阜県白川村三方岩～野谷荘司	各1頭

富山県大多和峠におけるムモンアカシジミの採集記録

吉村久貴・吉村貴己

1987年8月30日、富山県上新川郡有峰湖周辺へ採集に出かけた際に、ムモンアカシジミ2♂♂を採集しているので報告する。

有峰にはムモンアカシジミが、以前より生息することが知られている。当日は非常に暑い日で、有峰ダム、折立平、東谷と車を走らせて採集したが、キベリタテハは1♀しか採集できず、岐阜県へ抜けて帰ろうとしていた。大多和峠の少し手前でコナラの樹を見上げると、濃いオレンジ色の小さな蝶がせわしなく飛び交っているのが見えた。石川県内では何度かムモンアカシジミを目撃しているので、色から判断してもすぐにそれとわかった。つなぎ竿で採集してみると、まぎれもなくムモンアカシジミ。時期が遅いのでボロだと思いつつネットを振ったが、少しスレただけの個体であった。採集された個体は石川県産のものに比べやや小型で、発生地も標高1300mと高いためか、発生が遅いようであった。発生木は最初を目撃したコナラで、なかなか葉上に止まらず、同じ所を何度も飛び回っていた。

1987年8月30日 吉村久貴・吉村貴己

富山県上新川郡大多和峠	ムモンアカシジミ	2♂♂	
〃 有峰湖畔	キベリタテハ	1♀	ルリタテハ 1♂

宝達山のアサギマダラは移動個体群

松 井 正 人

能登地方の最高峰、押水町の宝達山ピーク(637m)で、ふだん全く観察されないアサギマダラが、一時期多数見られることがある。昨年も9月21日に多数観察したが、同23日には1頭も見られなかった。おそらくはアサギマダラの渡りの経路と思われ、移動中の個体群が通過するときに、多数観察されるものと思われる。そこで1987年は、マーキングにより調査することにした。

個体群がいつ現われるか不明だったため、最も早く見られた記録(1963年8月15日 嵯峨井 均)を参考にし、8月中旬より調査を開始した。アサギマダラは9月6日からようやく観察され始め、同27日に観察されなくなった。この間に59♂♂29♀♀マークし、再捕獲は、同日が8♂♂3♀♀、翌日が1♂だった。

日	マーク数		目撃	再 捕 獲	備 考
	♂	♀			
4	0	0	0		
6	6	0	8		交尾目撃
7	3	1	2	1♂(前)1♂(同)	
8	5	4	3	1♂1♀(同)	
12	0	0	2		気温低く風強し
13	21	10	多数	4♂♂1♀(同)	1 ♀既交尾
15	0	0	多数		24♂♂6♀♀採集(マーク個体なし)
19	2	4	4		午後より晴、気温低い。1 ♀既交尾
20	22	10	多数	2♂♂1♀(同)	1 ♂羽化直後
23	0	0	4		気温低い
27	0	0	0		
計	59	29		1♂(前)8♂♂3♀♀(同)	

アサギマダラがピークで見られたのは、9月6日から同23日までの18日間である。寿命が1ヶ月から2ヶ月と思われることから、ピークのアサギマダラは何処かへ移動したと考えられる。また、12exs再捕獲されたことから、マーク個体がマークに因る影響、例えば驚いて高く舞い上がり、何処かへ飛んでいってしまうといった影響を受けていないと考えられる。にもかかわらず、翌日再捕獲されたものは1♂のみで、それ以上経たものが採集されていない。これよりピークで見られる個体が、毎日の様に入れ代わっていると考えられる。(調査回数が少ないことから、毎日と言いつても過言かも知れない。)以上から、宝達山ピークのアサギマダラは、毎日の様に入れ代わり、20日程度で通り過ぎる移動個体群と思われる。

また、今回の調査から若干の知見も得られたので、考察も入れ付け加える。

1. 20日マークの1♂は、宝達山での2化と思われる。

2. アサギマダラはただ一方へ飛ぶのではなく、吸蜜、追飛、探雌、交尾と言った行動も見られた。これらは移動を妨げると思われる。
3. 13日から20日にかけては、多くのアサギマダラと共に多くのツバメも観察し、23日にツバメは全く観察できなかった。ツバメの渡りと関係があれば興味深い。
4. 白ネットは黒ネットよりはるかに捕獲が容易で、黒ネットは近づけただけで逃げる個体が多かった。アサギマダラは黒を嫌うようである。
5. 日中、雄は羽を開いて止まり、雌は閉じて止まるが、午後4時近くなると(又は気温が下がると)雄、雌とも羽を閉じて止まる。この時は、地上5m以上の突き出た枯枝を利用することが多い。こうなると真下からでは、枯枝そっくりで、何処に止まっているのか全く分からない。
6. 食草となるオオカモメズルが散見されるが、今のところ卵、幼虫は確認されていない。
7. 吸蜜にはアザミの一種、タラノキ、コシアブラを利用し、特にコシアブラで多数観察した。
8. マークした29♀♀の内、既交尾(腹部にしこりのあるもの)はわずかに2個体であった。アサギマダラの交尾は羽化後たいへん遅く、それまでは渡り(移動)をしていると思われる。そこで、ほとんどの雌が既交尾ならば渡りの終点付近、逆にほとんど未交尾ならば渡りの始まり、と考えることはできないだろうか。

最後になりましたが、この報文を書くにあたり、快くデータの発表を承諾して下さった嵯峨井淳郎氏、マーキングに協力いただいた澤田 博、中西重雄の両氏に感謝いたします。

白山周辺のムモンアカシジミの発生について

勝 海 雅 夫

9月15日、白山釈迦林道へ行く途中、白峰村根倉谷出合にて完全個体の本種を発見した。崖の上より車道を横切る様にして谷側へ消えた為、谷側の草木をビーティングしたが、再度発見はできなかった。

9月20日、尾口村丸石谷を訪れた際、新岩間温泉より500m程下った場所で本種の♀を採集した。後翅左が破損している程度で、鱗粉の載りは極めて良いものであった。また、新岩間温泉より150m程上の砂礫置場で、破損及び鱗粉の載りの非常に悪い2♂♂を採集し、発生木も確認する事ができた。

以上、本種は9月上旬に発生する個体もあり、だらだらとした発生であることは、まず間違い無いと推測される。

石川郡白峰村根倉谷出合	1987年9月15日	1 ♀ 目撃	勝海雅夫
石川郡尾口村新岩間温泉	1987年9月20日	2 ♂♂ 1 ♀	勝海雅夫
石川郡尾口村新岩間温泉	1987年10月6日	1 ♂ 目撃	勝海雅夫

富来町高爪山における採集記録

吉村久貴

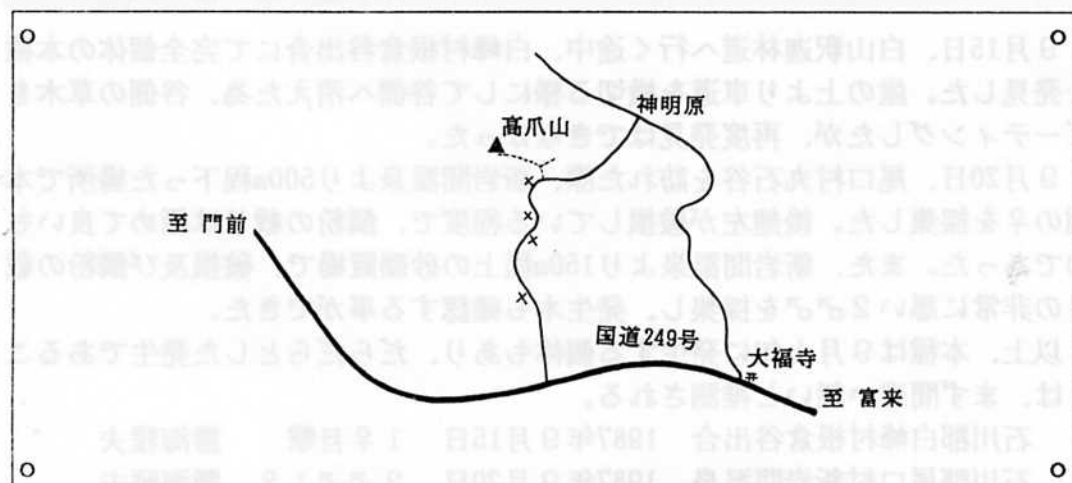
羽咋郡富来町と鳳至郡門前町の境にある高爪山は、遠くから見ても裾野がなだらかに広がる非常に美しい山である。高爪山へは富来町の大福寺から神明原を経て登山口まで続く車道があり、車を降りてから頂上まで500m程である。この高爪山には以前より、メスグロヒョウモンが比較的良く見られることが知られているが、本年、何回か採集に立ち寄る機会に恵まれた。高爪山にはヒョウモン類がかなり多く、アゲハ科のチョウも数種類目撃した。能登地方の採集データはあまり報告されていず、何かの役に立てばと思い採集記録を報告する。

1987年6月28日 ウラギンヒョウモン 1♀ クモガタヒョウモン 1♂
 ウラギンスジヒョウモン 1♂

高爪山の登山道口、車道沿いには、白いトラノオがたくさん咲いており、吸蜜するヒョウモン類を多数目撃した。ウラギンヒョウモンとミドリヒョウモンが圧倒的に多い様であった。

1987年7月5日 クモガタヒョウモン 1♂1♀ ミドリヒョウモン 1♂
 メスグロヒョウモン 1♀

やはり吸蜜するヒョウモン類を多く目撃した。葉上で休止しているメスグロヒョウモン1♀を採集したところ、時期的にちょうど良く完品であった。メスグロヒョウモンは他に3♂♂程度目撃したが、医王山などではほとんど目撃できないことから考えても、やはり多産する様である。その他の蝶では求愛行動をとるキアゲハ1♂1♀、ナミアゲハ、カラスアゲハsp.、ベニシジミ、キマダラセセリを目撃した。



金沢市戸室地区でオオミスジ採幼

田 中 秀 夫

戸室地区におけるオオミスジの記録は金沢市小豆沢にある。しかし、戸室別所、戸室新保のあたりにも梅の樹がポツン、ポツンと植えられており、今年8月に成虫を確認したので、松井氏に同行をお願いし、初めてオオミスジの採幼に挑戦してみた。

オオミスジの越冬幼虫は、4mm位の大きさで、見つけるのは非常に難しく、半日で1頭と聞いていたので、松井氏宅でまず幼虫の写真をしっかり頭の中に叩き込んだ。写真より実際にはずっと小さいので、果たして見つけることができるかどうか不安だったが、「夏に飛んでいた筈だから幼虫は必ずいる」と言い聞かせ、休眠芽や小枝の分岐場所を一つ一つ探していった。

最初のうちはこつがわからなくて、なかなか見つからなかったが、1頭見つけてからは要領が分かり、直ぐ6頭追加した。大変低い所に台座を作っており、大体40cm程の高さに多かった。一週間後にも2頭採幼したが、いずれも低い所に台座を作っていた。また、蛹の殻も5つ発見したが、いずれも高さは40~50cmであった。

1987年11月1日	金沢市戸室別所	7幼	田中秀夫
1987年11月8日	金沢市戸室新保	2幼	田中秀夫

医王山のゴマシジミ

松 井 正 人

石川と岐阜の県境、白山山系の三方岩岳から妙法山にかけてゴマシジミが多数確認され、更には白峰村の砂御前山からも採集されたとすると、尾根筋でカライトソウが有ればゴマシジミは分布するといった妄想に取り付かれてしまう。

医王山にもカライトソウがある。しかも尾根。しかしながら標高がいまいち低い。三方岩から妙法にかけては1700m前後、砂御前は1200m前後、医王山となると600~800m、いささか低い。

しかし、金沢のゴマとなるとビックニュース、フィールドも近い。

しかし、白峰のポイントは標高もあり可能性が高い。

しかし、……。しかし、……。しかし、……………

1987年8月9日 晴 金沢市医王山

大池林道ポイント 標高600m

ガレた岩場にカライトソウがある。キンコウカが花盛りできれいだったが、ゴマは全く姿を見せない。

中尾尾根ポイント 標高800m

中尾新道(登山道)沿いのブッシュの中にカライトソウがある。時々ガレている所ではカライトソウが目立つが、ゴマの姿は無し。

悩んだあげくの調査はボツってしまったが、医王山のゴマシジミは妄想の蝶であらうか。

「 ロ ッ キ ー I 」

野 中 勝

「ロッキー山脈へ行けば、車で4000mまで登れるよ。」数年前、まだ日本にいた頃、アメリカ帰りの友人から聞いたこの言葉は、僕の心をロッキーへ誘った。従ってアメリカへの留学が決まった時から、夏には vacationをとってロッキーへ行こうと決めていた。それが実現したのが2年目の今年(1987年)。当初は1ヵ月休みをとってアメリカンロッキーからカナディアンロッキーまで走破する景気の良い事を考えていたが、種々の事情から期間を2週間に、範囲をコロラド、ワイオミング両州だけに縮小せざるをえなかった。それでも赤い紋のあるパルナシウスの舞うロッキーの山々は、充分に僕を満足させてくれた。以下はその記録である。

■7月11日 セント・ルイスからロッキーの東麓のデンバーまでは真西へ1300km。誰に聞いても、途中見るべきものは何もないと言う。家族連れ故、無理もできず、この単調極まりもないと思われるドライブを2日に分けることにして、初日はカンサス州の真中辺りのサリナと言う町まで。セント・ルイス付近は広葉樹林帯に属するが、カンサスに入る頃から樹は無くなり、あとはただただ限りなく続く草原。大部分が牧場になっていて、果てしない荒野に時々牛、馬がポツポツと見られるのみ。アメリカの国土の豊かさを新ためて感じさせられる。単調なドライブはかなわないが、この辺りのハイウエーは車が少ないので、日本ほど疲れはしない。それにいくら走っても無料だから嬉しい。早めにモーター¹⁾に着き、プールに飛び込む。

■7月12日 天候が思わしくないが、今日は山を見ることができると勇んで出発。再び限りない草原を、ひたすらロッキー山脈をめざしてアクセルを踏む。デンバーの50km程南のコロラド・スプリングという町に近づくと、突然！雲が切れて、残雪をいただいた岩山がそびえ立った。長いあいだ山を見なかった身²⁾には、とても印象的であった。標高2500mのウッドランド・パークまで登り、モーターを捜す。ガスがかかる悪天のせいもあってやたら寒く、室の暖房を入れてセーターを着こむ。

■7月13日 朝、車のエンジンが始動しない。中古とはいえ天下の日本車('83型ミツビシ・トレディア)にそんなことは有り得ないと、何度も試みたがダメ。暖かくなればかかるだろうと樂觀して、付近を散策し時間をつぶすことに

¹⁾ アメリカでは車で乗り付けるごく一般的なホテルを意味する。ハイウエー沿いならどんな田舎町にもたいてい1、2軒はあり、料金もダブルベットが2つ入った室で(つまり一家で)、30ドル位からある。

²⁾ 筆者の住むセント・ルイスはミズーリー州にあるが、北海道+東北+関東位の面積を有するこの州の最高地点は約500m、それもなだらかな丘として盛り

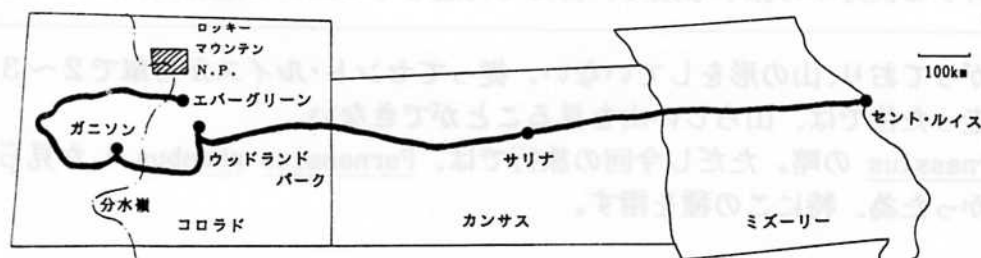
する。モーターの裏は針葉樹林。すぐにパル³⁾の食草と目されるベンケイソウ属(*Sedum*)の stonecrop と呼ばれる黄色い花が目に入る。この草の分布はかなり広い様で、以後今回の旅行を通じて砂漠の様な平地、道路脇のガレた斜面、森林限界を出たお花畑などで見る事ができた。その他色とりどりの花をカメラに収めていると、ハタザオの黄色い花及び、あの特徴のある実が見つかった。引き寄せて見ると、*Anthocharis* 風の幼虫がついている。付近を捜すと赤い卵もあり、この辺りには *Anthocharis sara* というなかなか良い、しかも地域変異に富む種が分布しているはずなので、ホクホク顔で採集する。旅行中、餌を補給しながら飼育を続けた結果、途中で次々と蛹化し最終日には1頭が羽化した。それは *Pontia* 属(チョウセンシロチョウの属)のさえないシロチョウであった。その他、最近までオオイチモンジと同じ *Limenitis* 属に入られていて、ついこの間、属名が変更になったと思われるイチモンジチョウ、明るいオレンジ色がなかなか美しいベニシジミなどをネットしながら時間をつぶし、車に太陽が当たるのを待って再び始動を試みるがダメ。やむなく修理工場へ行こうと牽引車を呼ぶ。ところが牽引車のお兄ちゃんは一目で問題を見抜き、低温の為チョークが働き、ただでさえ薄い空気が更に不足して始動しないのだからと、エアフィルターの所の弁を手で開いて、始動させてくれた。大きなトラブルでなかったので一安心したが、ここで3時間ほどムダにしてしまった為、本日は採集を断念して観光地巡りに専念となる。まず直ぐ近くの「神々の庭」という巨岩がゴロゴロしている所を見物。次は深い溪谷が売りもののロイヤル・ゴルジの予定だが、地図を見るとハイウェイを回るのはずっと遠回りに見えるので、山越えの道を選ぶ。ところが登っていくと途中で舗装が切れ、様子がおかしくなってくる。それでも更に進と道脇に「危険、進入禁止」という意味の立札。日本なら車止めのチェーンでも無い限り気にもしないで入って行くのだが、外国ではさすがに気持が悪くためらっていると、折よく後ろから車が来たので道を尋ねる。やはり、まったく方向違いであることが判明し、Uターンをしようと窓から顔を出す。すると谷側の樹の葉の上に大型のシジミが見え、あわててネットをとりだし採集する。何とそれはパルに次いで今回の目標であったコロラドシジミというゼフの仲間であった。アメリカにはゼフの仲間は、わずか2種しか分布しておらず、図鑑で見る限りもう1種はアカシジミとウラキンシジミの中間の様なさえない種であるが、コロラドシジミの方は、ブルーとオレンジの紋を有する僕好みの派手な奴で、喜んで付近を叩き回って追加したことは言う

上がっており、山の形をしていない。従ってセント・ルイスから車で2~3時間走った位では、山らしい山を見る事ができない。

³⁾ *Parnassius* の略。ただし今回の旅行では、*Parnassius phoebus* しか見られなかった為、特にこの種を指す。

までもない。良く見ると、このシジミが止まっていた樹がギャンベル・オークと呼ばれる食樹らしく、カシワを貧弱にした様な樹は斜面にかなり見られた。高さが2~3mしかない為に極めて叩き易く、急斜面を上下して叩き回った結果10頭以上採集でき満足。同じ樹を食樹にしていると思われるカラスシジミの仲間(*Satyrrium*属)も2頭採集できた。あとは先程の失敗を反省して確実なハイウェイを行くことにし、ロイヤル・ゴルジを見学。そして更に西へ、宿泊地と予定したガニソンまで車をとばす。途中、ギャンベル・オークの良さそうな林がたくさんあったが、時間が無い為に涙を呑み、素通り。又、ガニソンの直前では、太平洋と大西洋の分水嶺になっている3000m以上の峠を越えたが、夕方のせいか蝶の姿は無かった。

7月14日 本日は更に西へ行き、ブラック・キャニオンという観光地に寄り、それからハイウェイを北→東と5時間程とばして、デンバーの近くまで戻ってくる予定である。女房の陰謀(?)で観光地巡りが多く、採集する時間が少ないのを不満にブツブツ言いながらドライブする。進むにつれ土地が乾燥してくる様で、セイジと呼ばれる灌木風の草だけが目につく、西部劇に出てきそうな風景となってくる。時々、谷の様になった所にギャンベル・オークが生えているが、車を止めて叩いても何も出てこない。蝶の姿はほとんど見ないままブラックキャニオン・ナショナルモニュメントに着き、入場料を払って見物。砂漠風の台地に川が深い溪谷を刻んでおり、車が通れるのは台地の上の方。従って所々から、はるか下の方を流れる川を覗き込む様になっている。蝶がチラチラしており、さえないジャノメが多いが、それに *Oeneis* 属(タカネヒカゲ属) sp.、ベニヒカゲの仲間が混じっている。早速ネットを出して採集しようとする、通りがかりのアメリカ人が「採集は禁止されている。それでも採りたければ、それはあなたの自由だが、もしレンジャーに見つかれば1000ドルの罰金をとられる」と教えてくれる。たかがタカネヒカゲで1000ドル(約15万円?)では日本よりひどいではないかと考え、すぐにネットをしまう。ナショナル・パーク(国立公園)では採集禁止だろうと予想していたが、ナショナル・モニュメント(国立記念物と訳すのか?)も全く同様らしい。あとはただただアクセルを踏んで、宿泊地のエバーグリーンへ。途中いくつか3000m以上の峠を越えたが、パルは姿さえみせず、先行きがやや不安になる。しかしエバーグリーンは3泊の予定なのでやっと少し落ち着く。(つづく)



会員の動き・しゃばの動き

■M.NONAKA、ヨーロッパへ飛び、モンブランやマッターホルンで採集活動。時差ボケとかフランス語の壁とか言っているが、早い話しがスカ。採れなかったんだよ。

■富山市内でオオクワガタ採集さる。

1987年8月20日 1♂ 富山市経堂ど平地、しかも水田地帯にある柳のウロから採集されたとなると、おらが在所でも可能性はあるよ〜。

■9月23日吉村氏、家族旅行で松本辺りへ。シータやクジャクのピカピカがたくさん採れたらしい。

■10月4日勝海氏、キベリの調査に岩間へ。気温の低下と共に下界へ降りると予想されたが、温泉付近で、のんびり日光浴をしていたらしい。

■10月9日井沢氏、吉村氏依頼の標本をたくさん抱えて来沢。最近、吉村氏は氏からゴッソリ買い込んでいる。

■？ 蝶は凶器か？ 庭のミカンが一晩で丸裸になり、枝には虫がいた。触るとニューっと角を出し、ショックで老婆さんは寝込んでしまった。自然発生なら問題は無いが、ある晩忽然と終齢幼虫が多数出現したとなるとやっぱり凶器か！！

■10月10日より2日間、松井、吉村の両氏、近畿支部長の吉岡氏に連れられて和歌山県をふらついた。エモノはツマグロヒョウモンとクロコノマでジュズダマもたくさん採ってきた。

■10月11日中西氏、フジ、ホソヒメを狙って釈迦岳へ。二種狙うものは一種も採れずで、獲物はヤマブドウとナメコだけだった。

■岐阜昆同の宮野氏、石川のヒサマツを狙って犀川ダム周辺、山中町を調査。犀川ダムは蝶談会の庭も同じ、喉元に刃物でも突き付けられた様な気がしませんか。うかうかしてると、どこぞの会の二の舞になりませ〜。

■10月24日吉村氏、和歌山は白浜温泉へ家族旅行。25日は田辺あたりで、クロコノマを採集。さてこの旅行、たまたまなのか、仕組まれたものか。

■10月27日野村氏、久々の快晴に誘われて、なんとなく医王山へ。ついでに桜何ぞに手を伸ばしたが、チャランポランがたたって何も採れず。

■11月1日松井、田中、田辺の3氏、大場でアサギマダラの飛行テスト。見通しの良い水田地帯の為か風が強く、次々放たれた個体は総て風下へ。

■11月1日松井、田中の2氏、戸室地区でオオミスジの採幼。第一声は田中氏、続く2、3、…も田中氏。結局、松井氏はスカだったのです。

■11月1日松田氏、富山県はヒサマツの谷を尋ねたが、ウラジロの新芽がかんばしくなく、満足な芽はほとんど見られなかった。これではヒサマツもたいそう困った事だろうと愛おしんだが、しっかり採卵してきた。

■11月2日M.NONAKAよりロッキー夏の蝶が届く。パル、ゼフ、ブルー、モンキ、タカネ等々。吉村氏が代表で展翅するので、欲しい人はハナシをつけておくこと。

■11月3日松井氏の所でクロコノマが羽化しだした。能登産かと思われたが、和歌山産との事。

■11月3日中西邸にて暇つぶし大会。暇つぶしの3人組に、ズルズルと引き込まれ「忙しくて首も回らないのに」とぼやいていたのは井村会長。では暇つぶし3人組とは誰か。

■11月7日松井氏、再びアサギマダラの飛行テスト。今回は風が無く条件は良好。東から南東にかけて飛び去った。

■11月8日松田氏、フジを狙って白山釈迦林道へ。ところが昨年に続き今年も不作らしい。1978年と1985年が豊作年とすれば7年周期となり今回は1992年となる。

■11月21日勝海氏、松田情報を得ながらもヒサマツに挑戦。おいしい芽があっても単卵ばかり、豊産を誇った猪谷だが今年は少ないらしい。

■11月22日中西氏、連休を利用し新潟県は粟島へ行く予定。「粟島のマイマイを採らずして、マイマイを語るなかれ」なんて言葉知ってる？ 本人はエライお気にいりだよ。

■越冬卵の保管について耳よりな話。冷蔵庫へ入れる時、活性炭（ノンスメル等）を一緒にいれるのがミソ。乾燥、過湿が防げ、カビが生えることもない。活性炭に少し湿気を与えると効果バツグンで、フ化率も上がるらしい。（蝶研フィールド20号より）

■雌雄によって紫外線の反射率が異なることではモンシロチョウが良く知られている。どうやらギフチョウも部分的に異なり、これを利用して交尾行動が行われているらしい。（待虫通信56号より）

例会の記録

10月2日(金)城南管工2Fにて8時

より開催。松井氏より、「会計が苦しいので、会誌を書店へ流しては」との議題が出たが、「会誌を書店へ流すのは好ましくない。赤字は会費の値上げで対処する。」と決定した。その後は、市役所依頼の作品選定会を兼ねたスライド大会。上映者は竹谷、田辺、松田、松井の各氏。松田氏はテレビ持参でキベリとアサギマダラのビデオも披露。また今回は松井氏がアサギマダラの幼虫を、田中氏がヒラタクワガタを持ち寄り、会員を楽しませた。雑談の内容は、医王山のクマ騒動は採卵屋が原因か？（松井）。ゼフの採卵で一番易しいのは（澤田）。釈迦林道にはシダの化石が一杯（中西）。「蝶の世界」に翔が載っている（吉村）。今年はウスバシロしか撮っていない（小幡）。独立したのでよろしく（田辺）。エノキとエゾエノキはここで分かる（近藤）。ヒラタクワガタのピークは6月（田中）。莊川のツヤハダは全滅（井村）。丸石谷は入れなくなった？（竹谷）。アサギマダラの角はカタツムリと同じ？（中西夫人）。参加者は、山岸、松田、嵯峨井、小幡、田中、近藤、田辺、竹谷、松井（2人）、中西（2人）、吉村、細沼、澤田、井村の16人。（敬称略）

とぶ NO.67 1987年12月4日発行

編集 松井 正人

発行 百万石蝶談会

事務局 金沢市大場町東871の15

松井 方

〒920-01 ☎0762-58-2727

郵便振替(金沢)5-562

印刷 小西紙店印刷所

北町丁5の1 ☎31-5379